

フルスト原遺跡(国史跡)(石垣市大浜)

フルスト原遺跡（フルストばるいせき）は、沖縄県石垣市大浜にある城（グスク）状の遺跡。1978 年（昭和 53 年）3 月 3 日に国の史跡に指定されている。

フルスト原遺跡は、石垣島南部の丘陵にあり、オヤケアカハチの居城跡であると言い伝えられてきた。オヤケアカハチは、15 世紀に八重山諸島を支配した豪族で、1500 年にオヤケアカハチの乱を起こして琉球王国の尚真王に討伐され、以後、八重山諸島は琉球王国の支配下に入った。

フルスト原遺跡をオヤケアカハチの居城とする史料はないが、オヤケアカハチが住んだとされる大浜地区には他に城跡が発見されておらず、琉球王国の歴史書である『球陽』においてオヤケアカハチが「嶮岨を負い、大海に面して」陣を構えたとする描写がフルスト原遺跡に当てはまることから、その可能性は充分にあると考えられている。

フルスト原遺跡は、丘陵東側の高さ約 2 メートルの崖上に珊瑚性石灰岩を野積みした城壁を巡らした中に、同様の構造の郭状遺構が十数区画確認されており、西南部には御嶽跡があるなど、グスクの特徴を備えている。敷地からは、中国製陶磁器や八重山焼の破片が出土している。

Wikipedia による



オヤケアカハチ（遠弥計赤蜂、於屋計赤蜂）は、沖縄県八重山諸島石垣島の大浜村（現在の石垣市大浜）を根拠地とした 15 世紀末の豪族である。

オヤケアカハチの生誕地は波照間島で、幼少の頃から豪傑としての頭角を表していたという話があるが、不詳。波照間には生誕記念碑がある。

歴史史料上は大浜住人として登場する。妻は石垣村の長田大主の妹の古市。1500 年、彼は島民の広範な支持を背景に、中山王府への八重山からの朝貢を断たしめたが、2 月 13 日からの中山軍 3,000 人との戦いに敗北し、討ち取られた。これを、オヤケアカハチの乱と言う。

現地の口碑ではアカハチの居宅は現在の大浜公民館の辺りとされるが、一部学者は「フルスト原遺跡」をオヤケアカハチの居城跡に比定している。

